


## ティーチング・ポートフォリオ兼教員プロフィール

	<p>保育科 専任講師</p> <p>清水 一 毅 (しみず かずき)</p> <p>SHIMIZU Kazuki</p>
所属	保 育 科
学位	修士 (教育学) (山梨大学)
資格・免許	<p>小学校教諭1種免許状 (平 25 小 1 第 28 号 : 山梨県教育委員会)</p> <p>特別支援学校教諭1種免許状 (知・肢・病)</p> <p>(平 30 特支 1 第 13 号 : 山梨県教育委員会)</p> <p>小学校教諭専修免許状 (令 3 小専第 1 号 : 山梨県教育委員会)</p> <p>認定心理士 (登録番号 : 67634)</p>
学歴・職歴	<p>&lt;学歴&gt;</p> <p>2014 年 3 月 山梨大学教育人間科学部 卒業 (学士 : 教育学)</p> <p>2017 年 3 月 山梨大学大学院教育学研究科教育支援科学専攻修士課程 修了 (修士 (教育学))</p> <p>&lt;職歴&gt;</p> <p>2014 年 4 月 山梨県キャンプ協会 理事 (現在に至る)</p> <p>2017 年 5 月 山梨大学教育学部附属特別支援学校 非常勤講師 (2017 年 5 月まで)</p> <p>2017 年 5 月 山梨県立甲府支援学校 療養代替職員 (講師) (2017 年 7 月まで)</p> <p>2017 年 9 月 山梨県立甲府支援学校 産休代替職員 (講) (2018 年 1 月まで)</p> <p>2018 年 1 月 山梨県立甲府支援学校 育児休業代替職員 講師 (2018 年 3 月まで)</p> <p>2018 年 4 月 帝京学園短期大学保育科 兼任講師 (2025 年 3 月まで) 担当科目 : 発達心理学 I、発達心理学 II、子どもの理解と援助、子ども家庭支援の心理学、教育相談</p> <p>2018 年 4 月 NPO 法人山梨幼児野外教育研究会 理事 (現在に至る)</p> <p>2020 年 2 月 山梨県立富士見支援学校 兼任講師 (2020 年 3 月まで)</p> <p>2020 年 8 月 南アルプス市立楡形中学校 会計年度任用職員 (学力向上スタッフ) (2021 年 3 月まで)</p> <p>2021 年 9 月 山梨県立大学人間福祉学部人間福祉学科 兼任講師 (2022 年 3 月まで)</p> <p>2022 年 4 月 ソニー学園湘北短期大学生活プロデュース学科 専任講師 (2025 年 3 月まで) 担当科目 : 心理学、自己理解の心理学、発達心理学、子どものワークショップ演習 I・II、ゼミナール、私のキャリアデザイン、インターンシップリテラシー、インターンシップ (短期)、ライフスタイルマネジメントの基礎 (オムニバス)、ライフキャリアプランニング (オムニバス)、生活に役立つ教養と SDGs (オムニバス)</p> <p>2022 年 4 月 山梨大学教育学部 兼任講師 (2022 年 9 月まで)</p> <p>2025 年 4 月 山梨学院短期大学 保育科 専任講師 (現在に至る)</p>

担当科目	<保育科> 発達心理学Ⅰ 発達心理学Ⅱ 子どもの理解と援助 基礎演習 卒業演習Ⅰ 卒業演習Ⅱ <専攻科保育専攻> 発達心理学特論Ⅰ 発達心理学特論Ⅱ 教育研究法
専門分野	発達心理学 野外教育学
現在の研究テーマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児の人間関係発達に与えるきょうだいの影響</li> <li>・野外活動を通じた子どもの人間関係の発達</li> </ul>
競争的資金等の研究課題	—
所属学会	日本心理学会 日本野外教育学会 日本特殊教育学会
メッセージ	2年間という短い時間ですが、たくさんの体験やたくさんの学びを通して、自ら動くことで「自分」をつくりあげていきましょう。少し視点を変えるだけで、もしかしたら全く違う景色が開けるかもしれません。さまざまな関わり合いのもと多くの視点を得られる学生生活にしましょう。

教育	
2025年4月～2026年3月	
教育方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら考え、仲間たちとの会話を通して学ぶ喜びを体験できる授業を目指す。</li> <li>・新しい知識や技能を学ぶことに対してワクワクする気持ちを抱くことのできる授業を目指す。</li> </ul>
授業	<p>授業の工夫</p> <p>&lt;発達心理学&gt;</p> <p>ひとは一生をかけて発達するという生涯発達の視点に立ち、これまでの自分、現在の自分を発達の観点からとらえることで、自己の認識を深めることを目標としている。発達理論についての学びでは、その内容と自分を照らし合わせることを通して、学んだ情報を自分に関連付ける能力が育まれるよう工夫している。また、調べ学習を取り入れることによって教員から教えられるだけではなく、自ら調べ学ぶこと、調べた内容を発表することができるように工夫している。</p> <p>&lt;子どもの理解と援助&gt;</p> <p>8回授業のうち4回を担当しているので、特に子どもの援助の部分に焦点を当てて学びを深められるようにしている。子どもへの援助方法を考える中で、「環境調整の工夫」について考えられるよう、ICFのモデルを利用して環境を整える大切さを伝えている。また、「環境調整の工夫」を考える場面では、学生自身の生活の実例を用いて考えることにより、より理論を身近にとらえられるように工夫している。</p> <p>&lt;教育研究法&gt;</p> <p>教育研究にかかわる手法のうち、特に心理統計法を用いたデータ処理の理論と方法について焦点を当てた。実際に検定を行う場面では、スクリーンに教員の作業状況を映し出し、学生が同じように作業を進めることにより、手順を理解できるよう工夫した。また、授業で練習問題を取り扱い、事後課題で類似の問題を出題することで、データ処理の方法が身につくよう工夫している。</p>
	<p>授業改善のための取組み</p> <p>担当するほぼ全ての授業で毎回、本時の目的および授業の目次を提示し、授業で学ぶ内容や流れを事業開始時につかめるようにしている。授業後課題を設定し、その中で「本時の授業での学んだこと」について自由記述で回答を求め、次回の授業の初めに何名かの回答をピックアップして周知することによって、他者の意見を聞き、知見を広げることができるきっかけになるよう意識した。</p> <p>理論に関する内容を多く取り扱うことが多いが、学生たちがただ聞くだけといった受け身の授業にならないよう、グループワークやジグソー法など、体験的に学べる機会を多くと入れられるよう意識した。</p>

教育（つづき）		
2025年4月～2026年3月（つづき）		
ゼミ	ゼミ活動 （卒業演習） （修了研究）	<p>&lt;卒業演習Ⅰ&gt;</p> <p>数理情報・データサイエンス・AI教育プログラムの学習内容についての疑問・質問に対して解決する援助を行いつつ、来年度に向けた研究テーマについて考えた</p> <p>&lt;卒業演習Ⅱ&gt;</p> <p>前期はアイスブレイクゲームやイニシアティブゲームなど、人間関係を構築するために用いられるゲームについて体験的に学びを深めた。卒業レポートでは、個人の興味関心に合わせてテーマを設定し、アンケート調査やインタビュー調査では、心理統計法を用いたデータ処理を行って結果を出せるよう、質問項目の選定やデータ処理方法について指導を行った。</p>
	卒業レポート・ 修了研究テーマ	<p>&lt;卒業レポート&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・きょうだい位置と物事の捉え方および理想的異性像の違い</li> <li>・産後うつのイメージ調査—保育学生におけるメンタルヘルス理解の実態—</li> <li>・韓国のヌリ課程と日本の保育指針を比べて</li> <li>・保育現場における絵本の役割について</li> <li>・おもちゃ遊びを通して得られる力と保育観について</li> <li>・きょうだい位置に関するストレスの感じ方の違いについて</li> <li>・絵本におけるオノマトペの使用傾向や保育的効果</li> <li>・子どものディズニー映画の視聴から抱く憧れについて —映像作品が自己形成に与える影響—</li> <li>・親子の会話と本音について</li> </ul>
課外活動	<p>・野外教育プログラムについて紹介・引率し、野外という特殊な環境下で子どもたちがどのように活動し、かかわりあっているかなど、子どもたちの様子を実際に見て体験して学べる機会を提供した。</p>	
2025年3月以前		
主な教育業績	<p>&lt;野外教育活動&gt;</p> <p>・NPO 法人山梨幼児野外教育研究会が主催するようじキャンプにおいて、プログラムディレクターを担い、活動の企画・運営および大学生スタッフへの指導を行った。</p>	

研究		
2025年4月～2026年3月		
タイトル（単著・共著）	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
—	—	—
2025年3月以前（主なもの）		
タイトル（単著・共著）	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
（学術論文） 養育者の関わりによる乳児の反応表 出の変化 （単著）	2025年3月	湘北紀要 第46号 （ソニー学園湘北短期大学）
（学術論文） 短期大学生のキャリア教育の効果－職業選 択における優先項目の変化に注目して－ （共著）	2024年3月	湘北紀要 第45号 （ソニー学園湘北短期大学）
（学術論文） イメージの違いによる楽曲の受け取り方 の変化－歌詞解釈の前後における共感性の比 較－ （単著）	2023年3月	湘北紀要 第44号 pp.1-7 （ソニー学園湘北短期大学）
（学術論文） 大学生のイメージとの比較からみる子ども の遊びについての考察－川崎道夫著『あそ びのひみつ』を読んで－ （共著）	2022年3月	帝京学園短期大学研究紀要 第23号 pp.87-97
（学術論文） 野外教育を通じた注意欠如多動性障害児の 変容－コミュニケーション能力に注目して － （単著）	2021年2月	山梨障害児教育学研究紀要 第15号 （山梨大学教育人間科学部障害児教 育講座） pp.125-136
（学術論文） 保育系短期大学における心理学教育の意義 について－心理学の捉え方の変化に注目し て－ （単著）	2020年3月	帝京学園短期大学研究紀要 第22号 pp.87-93

研究 (つづき)		
2025年3月以前 (主なもの) (つづき)		
タイトル (単著・共著)	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
(学術論文) 重度・重複障害児(者)における整理心理学的研究の変遷－特殊教育学研究の研究論文を通して－ (修了論文) (単著)	2019年 3月	山梨大学教育学部特別支援教育特別専攻科 (全67頁)
(学術論文) 野外炊事を通じた児童のコミュニケーション能力の変動 (修士論文) (単著)	2018年 3月	山梨大学大学院教育学研究科教育支援科学専攻 (全55頁)
(学術論文) ヴィゴツキーの視点と現代の教育問題－繰り返されるヴィゴツキー論－ (共著)	2017年 2月	山梨障害児教育学研究紀要 第10号 (山梨大学教育人間科学部障害児教育講座) pp. 58-77 (担当部分 : pp. 60-62)
(その他 : 学会発表) 養育者の関わりが乳児の反応の表出に与える影響－事例での乳児観察による考察－ (単独)	2024年 6月	日本心理学会 第88回大会
(その他 : 講演) アクティブ・ラーニングの実践－学習者主体の学びを目指して－ (単独)	2024年 3月	2023年度ソニー学園湘北短期大学高大連携教育研究会
(その他 : 学会発表) 初任者教員の感じるリアリティショックについての検討－大学生の持つ教員イメージとの比較－ (単独)	2020年 9月	日本特殊教育学会 第58回大会
(その他 : 学会発表) 保育系短期大学生における心理学の捉え方－講義を通じた変化に注目して－ (単独)	2020年 9月	日本心理学会 第84回大会

研究 (つづき)		
2025年3月以前 (主なもの) (つづき)		
タイトル (単著・共著)	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
(その他：学会発表) 重度・重複障害児(者)における生理心理学的研究の変遷－特殊教育学研究の研究論文を通して－ (単独)	2019年 9月	日本特殊教育学会 第57回大会
(その他：講演) 野外活動を通じた注意欠如多動性障害児の変容－自発的コミュニケーションに注目して－ (単独)	2018年 1月	山梨大学教育学部附属特別支援学校 公開研究会
(その他：学会発表) 野外炊事を通じた児童のコミュニケーション能力の変動 (単独)	2017年 9月	日本心理学会 第81回大会
(その他：学会発表) 児童のキーコンピテンシー育成－野外教育を通して－ (単独)	2014年 9月	日本心理学会 第78回大会
(その他：学会発表) 野外教育で伸びる力における考察－キーコンピテンシーの側面から－ (単独)	2014年 6月	日本野外教育学会 第17回大会
社会貢献		
産官学連携、高大連携、研修会講師、学外委員会活動、学会活動、講演会、等		
2025年4月～2026年3月		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ NPO 法人山梨幼児野外教育研究会 理事</li> <li>・ 山梨県キャンプ協会 理事</li> </ul>		
2025年3月以前 (主なもの)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ あつぎ協働大学 (厚木市市民講座) 講師 (2023年度)</li> <li>・ 学校法人明德学園相洋高等学校・ソニー学園湘北短期大学 高大連携事業 講師 (2022年度)</li> </ul>		
受賞 ※個人、所属団体		
—		